

【アピール】（案）

参院愛知再選挙の終盤にむけ

村山内閣の悪政阻止に全力を尽くそう

民社党から当選した新聞正次が学歴詐称事件の失職により行われている参院愛知再選挙は、村山内閣発足後はじめての国政選挙として全国が注目するなかで終盤を迎えています。

序盤をめぐる情勢は、永田町が移転してきたと言われるように、自民・社会さきがけの連立と新生党中心の旧連立が国民不在の権力抗争を、そのまま愛知に持ち込んだ様相となっています。

しかし、有権者の反応は、当初の「もう・うんざり」と言う状況から、もともと新聞問題での再選挙であり、「政治家のウソと倫理」が問われる選挙であることや新・旧いずれの連立も自民党政治の継承であることなど「総保守対革新」の対決として争点が次第に鮮明になりつつあります。

また、連合愛知は、社会・民社が与野党に二分されたことで「きわめて残念かつ深刻な事態」と受け止め矛盾を深めています。

愛労連は、八月二日の第三回評議員会での方針にもとづき、村山内閣の発足後はじめての国政選挙として、悪政・悪法に対する断固たる有権者の審判を下す絶好のチャンスと位置づけました。

同時に、不況の国民本位の打開、年金・医療・福祉の改悪、消費税率の引き上げ、コメの輸入自由化反対など、要求実現をめざす世論の革新的結集と政党選択の基準を示し、旺盛な職場からの政治論議を呼びかけ奮闘してきました。

組合員のみなさん

九月十一日が投票日です。最後まで要求実現と政治革新のために全力を尽くされることを重ねて訴えます。ともに頑張りましょう。

一九九四年九月四日